

## 児宝安産縁結び・しもすわ開運プロジェクト事業 温泉銭湯とくみ湯文化紹介

### 取組に至る背景・事業の目的

既存の「99分のまちあるきマップ」は、宿場町でありコンパクトシティである下諏訪町の地理的特性を生かしたマップで、三角八丁という三角地帯の中を周遊する目的で制作され、来訪する観光客に人気があり、マップを片手に町を散策する観光客が増加している。しかしながら、このマップは町内の散策ポイントを同列の扱いで簡単に説明するだけのものであり、散策ポイントの選択は観光客に委ねられている。各ポイントをつなげるストーリーを提案できれば、目的を持ったまち歩きを促し、滞在時間の延長や、地域の歴史・文化への理解をより深めることができると考えた。前年度事業では、主に神社を中心に下諏訪を巡るストーリーとして開運めぐりでのまち歩きの仕組み作りを行ったが、今年度はそこに中山道では唯一の温泉宿場町として栄えた下諏訪ならではの歴史でもある「温泉銭湯と汲み湯の文化」を紹介することとした。温泉銭湯は「旅人が多く行き交う開かれた宿場としての下諏訪」という要素もあり、かつて湯沸かし器などが無い時代では、汲み湯は「誰もが汲める温泉の湯」として住民の日常生活を多に助ける役割があった。現在は、各家庭にある浴室や湯沸かし器などの普及により、最盛期より利用が減っているが、「いで湯のある下諏訪」「温泉銭湯と汲み湯の文化」という地域の特徴・歴史を深く知ってもらい、住民に温泉文化を再認識してもらうこととした。

### 事業内容

- プロジェクトメンバーによる検討会の開催  
旅館組合、財産区、観光協会、観光係を交えて実施
- くみ湯スポット（4箇所）へ統一した看板設置  
旦過の湯、新湯、遊泉ハウス児湯、御作田社に日本語・英語表記の看板設置
- 温泉開運めぐりリーフレットのリニューアル（10,000部）  
前年に作成したリーフレットへ「くみ湯スポット」を追加し、A3サイズ観音開きにて作成
- くみ湯&温泉銭湯体験イベントの実施（8月2日）  
子ども達に温泉の歴史、くみ湯文化について知ってもらうため昔の写真パネル展示、源湯施設見学、天秤棒でのくみ湯体験を実施（参加者12名）
- くみ湯活用イベント（11月3日）  
まち歩きイベント「三角八丁」に合わせ、下諏訪温泉についてのアンケートを実施し、くみ湯文化を知っているか、普段温泉に入るかなどを調査（アンケート回収198名）
- ホームページ（<https://shimosuwaonsen.jp/kaiun/>）の改版  
観光協会ホームページ内の特設ページを更新



【くみ湯&温泉銭湯体験イベントの様子】

### 事業効果

- ・開運めぐりリーフレットを掲載店や旅館、駅、観光案内所、温泉施設、休憩所などに設置
- ・特設ホームページへのアクセスは月250程度あり、観光客等に情報発信した。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後の取り組みとしては、温泉を活用した事業を自立して運用する仕組みを作るために、温泉ミストボトルを販売する。

#### 【選定のポイント】

汲み湯の体験等を通じて、住民が下諏訪温泉の歴史・文化について理解を深めることにより、郷土愛を醸成するとともに、魅力あるまちづくりの推進が期待される。

団体名	下諏訪温泉旅館組合（下諏訪町）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0266-28-2231	事業費	1,114,664円
ホームページ	<a href="http://shimosuwa.com/">http://shimosuwa.com/</a>	支援金額	859,000円

## 「信州伊那谷ガレット」による上伊那の新しい文化発信事業

### 取組に至る背景・事業の目的

- ・上伊那は信州そば発祥の地とされており、二つのアルプスに囲まれて形成された河岸段丘等の地形や温度・湿度がそばの生育状況に適している、高質なそば粉が収穫できることから、上伊那産のそば粉の付加価値を高めるために、ガレットを活用した地域振興を行った。
- ・ガレットを活用して上伊那地域のPRを行うとともに、農業の後継者不足で耕作放棄地となりつつある中山間地でそば栽培を継続できるよう、地域住民と協働しながら学習できるワークショップなどを開催した。

### 事業内容

- ・「信州伊那谷ガレット食べ歩きMAP」の作成・配布を行い、ガレットの普及啓発を行った。
- ・地域内外向け各種イベントへ参加し、「ガレットマルシェ2017」を主催した。
- ・総合学習など教育の現場との連携により、小中学生へガレット作り体験を通して、伊那谷文化の継承を行った。



【ガレットマルシェ】

### 事業効果

- ・3万部の「ガレットMAP」を作成し、管内各観光名所などに設置することにより、ガレットの普及啓発とともに、伊那谷のそば文化に関する情報発信を行った。
- ・TV、新聞、雑誌など各メディアに取り上げられることが増え、伊那谷ガレットが地域内外へ広まる機会が大幅に増えた。
- ・小学生向けにガレット体験教室を行うなど、食育プロジェクトを通じた上伊那らしい食文化の定着を行った。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・今後、さらに事業者や地域住民との連携を強化し、「世界一のガレット」「ガレットの聖地」として伊那谷を印象づけられるよう普及啓発を行っていく。
- ・100年後もブランド力のあるガレットを目指すとともに、「伊那谷そば」を美味しく栽培する技術確立させ、そばの経済作物化を推進していく。
- ・教育学習の一環として、子どもを対象としたそばの種まきや食育プロジェクトの拡大などを通じて、地域の食文化の継承を行っていく。

#### 【選定のポイント】

折りたたむとガレットの形状をしたマップタイプのパンフレットや上伊那版じゃらんによる印象的な周知方法を用いることでガレットのPRを図るとともに、管内各市町村の飲食店と連携し、ガレットの普及を図るなど、伊那谷の新たな魅力創出を図る取組であり、地域内への波及効果など事業効果を特に評価した。

団体名	信州伊那谷ガレット協議会 (伊那市)	事業タイプ	ソフト・ハード
連絡先	代表 渡邊 竜朗	事業費	1,546,860円
メールアドレス	kurabe_pasta@yahoo.co.jp	支援金額	1,222,000円

## 道路観光資源化事業

### 取組に至る背景・事業の目的

少子高齢化が進む中、交流人口の増加による観光及び産業の振興は重要なことであるが、阿南町、泰阜村ともに新たな観光資源の発掘が課題となっていた。そうした背景の中、道路構造物である橋を観光資源として捉えていくことにより、新たな観光資源の発掘に繋げ、交流人口の増加を図るため、橋カード等を作成しPRを行った。

### 事業内容

- 「橋カード」の作成について
  - 阿南町及び泰阜村内に架橋されている特長的な橋（12箇所）を県飯田建設事務所の協力によりドローン等で撮影し、構造や型式等の基本情報や地域のPR情報を掲載した。また、カードケースの機能を備えたパンフレットを作成した。
- 「橋カード」の活用・PRについて
  - カードの配布には、地元の飲食店や観光施設等の利用向上を図る条件を盛り込むことで、地域全体の活性化、交流人口増加を目指した。
  - ポスターやリーフレット、パンフレットにより広報を行い、県道開通式等や道の駅で開かれたイベントで配布・PRした。



【橋カードの表面】



【橋カードの裏面】

### 事業効果

- 橋カードによる一連の取組の結果、各観光施設での新たな観光客の開拓が進み、一般観光客だけでなくダムカードを収集するマニア等、幅広い人々に道路構造物である橋の観光資源として認識してもらうことができた。
- 近隣の町村において平成30年度に同様の事業が実施されることとなり、モデル事業として南信州地域に取組が波及した。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- パンフレットは、橋についての説明だけでなく、道路マップの危険箇所や快適通行区間情報、飲食店や宿泊施設の情報も掲載する等、橋以外の観光関連情報も豊富に盛り込む工夫をした。
- カードを全て集めた方から観光者視点としての意見を聞き取ることができ、道路案内の充実化等、阿南町や泰阜村が抱える今後の観光面での課題へ取り組んでいく。

#### 【選定のポイント】

橋と観光を橋カードというツールを用いて結び付け、インフラ観光という新しい視点により、観光拠点と協働しながら、地域内経済の活性化を図った。平成30年度には、近隣地域にも事業が波及し、今後の継続的な観光誘客効果が期待できる。

団体名	阿南町	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	建設環境課（0260-22-4053）	事業費	1,021,579円
メールアドレス	<a href="mailto:kankyo@town.anan.lg.jp">kankyo@town.anan.lg.jp</a>	支援金額	816,000円





## 砂防施設を活用した新たな観光事業の推進

### 取組に至る背景・事業の目的

白馬村、小谷村は観光業が村の主要産業となっているが、新たな観光客の誘致につながるツールや取組を模索している。また、両村には、土砂災害から地域を守る様々な砂防施設が存在するが、これまで観光業と結び付ける発想はなかった。

近年、ダムカードが全国各地で発行され、カードを求めて地域外から多くの観光客が訪れていることから、既存の特色ある砂防施設等を新たな観光客誘致の資源として活用するとともに、砂防施設の保全活動を通じて地域住民の地域防災力の向上を図る。

### 事業内容

- |   |                   |             |
|---|-------------------|-------------|
| 1 | 砂防カード配布           | 12月末 900セット |
| 2 | 砂防施設ガイドブック配布      | 12月末 900部   |
| 3 | 砂防カード啓発ポスター掲示     | 150枚        |
| 4 | 砂防堰堤への危険回避案内板設置   | 3台          |
| 5 | 砂防カードに関するホームページ更新 |             |
| 6 | 住民による砂防施設維持管理活動   | 25回         |
| 7 | 砂防堰堤バスツアー開催（後援）   | 4回          |



【作成した砂防カードとパンフレット】

### 事業効果

砂防カード配布2年目を迎え、配布希望者の約8割が県外から観光目的で来訪しているなど、一部の愛好家のみならず、砂防事業に対する一般観光客の認知度が格段に向上している。既存の砂防施設を個性的で魅力的な新たな観光資源として活用することで観光業の活性化に貢献できた。

また、FM長野で2週にわたり「砂防カード」が紹介されるなど、広く関心も集めている。

あわせて、地域住民の砂防事業に関する意識が高まり、草刈等の維持管理活動が延べ700名の参加を得て積極的に行われた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

誘客に資する継続した取り組みとなるよう、砂防カードの追加発行や、砂防施設を巡るバスツアーの規模を拡大して実施する。あわせて、より効果的な情報発信を図るため、ポスター及びガイドブックの改善を行う。また、北アルプス地域振興局管内で他機関が所管する施設を活用しての事業拡大について検討していく。

#### 【選定のポイント】

既存の特色ある砂防施設を新たな観光誘致の資源とするため、砂防ダムカードを作成・配布することで誘客につながられた。また、施設周辺の保全活動が地域住民の協働で行われ、防災意識の向上が図られた。今後、更に事業のブラッシュアップが行われることで、観光誘客のツールとなることが期待できる。

団体名	長野県治水砂防協会姫川支部 (小谷村)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0261-62-3257 (長野県姫川砂防事務所内)	事業費	649,695円
		支援金額	487,000円

## 信濃大町の食の魅力整備発信事業

### 取組に至る背景・事業の目的

食事は旅の満足度を大きく左右するが、大町市内の飲食店等には大町ならではのメニューは多くない。また、各家庭に伝わる伝統的な食文化は継承が難しくなっている。地域の食文化を掘り下げ、飲食店等で地元食材を使った料理を提供してもらうことは、観光地のおもてなしの面からも、地産地消の推進や地産地消の環境づくりの面からも重要である。

以上を踏まえ、2017年の初夏に開催された「北アルプス国際芸術祭」を見据えながら、大町の食文化の継承・発展や食の魅力発信等を目的に事業を実施した。



【試食会の様子】

### 事業内容

- 1 地元産の食材を使ったメニュー開発  
約30軒の飲食店・ホテル・菓子店等と連携し、地元産の食材を使ったメニューを3年間で100品近くの開発し、お披露目を兼ねた試食会を開催した。
- 2 地産地消の仕組みづくり  
大町の食を考える学習会や料理講習会を開催し、地元食材の魅力に触れてもらう機会を創出するなど、地産地消を促した。また、地元産品を活かした宿泊プランの開発や商品づくりにより地域経済の好循環につながる取り組みを実施した。
- 3 ウェブサイトやリーフレットによる情報発信の一元化  
大町の食にまつわるさまざまな情報を、ウェブサイトで一元的に発信するとともに、地域食材・食文化を紹介するリーフレットを作成した。

### 事業効果

- 1 料理人が互いに地域の食を学び合うことにより、地元食材を使った料理の開発と提供に前向きな体制ができた。
- 2 取り組みの成果を北アルプス国際芸術祭で活かすことができ、メディア等を通じて、県内外に広く信濃大町の食を発信することができた。
- 3 地元食材の生産者との連携を深めることにより、地産地消が促進され、地域経済の好循環を生む機会となった。
- 4 食の情報を収集・整理し、3年間の蓄積を大町市観光協会のウェブサイトに移管。集めた情報が事業終了後も引き継がれ、広く活用されることとなった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

地元での郷土食見直しへの機運をさらに盛り上げ、料理に携わる方々の商品開発への応援を継続する。大町市の事業である『大町の食材を楽しむ会』を通じ、これまで実施してきた料理の作り手と生産者のさらなる連携を深める学び合いの場を継承することができることとなった。これに協力していくと共に、来訪者への食のおもてなしに取り組む町として引き続き情報を発信していきたい。

#### 【選定のポイント】

農家や生産者と協働して地元食材を活用した料理メニューの開発やイラスト入りのリーフレットの作成、料理講習会等が開催され、地元食材の魅力の再発見、地産地消の仕組みづくりとなる事業に取り組んだ。今後も関係者間の緊密な連携が図られることで、地域の食の魅力が広く発信される事業となることが期待される。

団体名	信濃大町の食 おいしいプロジェクト準備委員会 (大町市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0261-23-7363 (創舎わちがい)	事業費	2,732,503円
		支援金額	2,160,000円

## 鬼無里フットパスによるまちづくり事業

### 取組に至る背景・事業の目的

鬼無里地域の観光事業振興を目的として、誘客・宣伝に努めるとともに、観光資源の保護と調和のある開発整備促進のため、次の事項について取り組む。

- ・観光資源の保護、保存、開発及び利用促進
- ・観光事業に対する調査、研究
- ・観光客の誘致、宣伝
- ・名産、土産品等の開発と販売促進
- ・観光情報の収集、伝達及び会員相互の連絡、協調

### 事業内容

身近な地域資源を活用した新たな観光ツールとして、鬼無里フットパスを導入。住民参加のワークショップでの検討を経て、鬼女紅葉伝説ゆかりの地をめぐる「谷の都コース」を開設。

- 鬼無里フットパスフォーラム（参加 33 人）  
6/4 開催、講演会「フットパスによるまちづくり」
- コースづくりワークショップ（参加延べ 114 人）  
6～10 月に計 5 回開催、9/2 モニターウォーク実施
- フットパスウォーキングイベント（参加 18 人）  
10/21 開催、住民のおもてなし（漬け物、煮豆など）
- 研修会（参加 20 人）
- 案内マップ作成、案内板・標柱の設置



【活動の様子】

### 事業効果

- ① ワークショップ参加者から、コースづくりで地域や住民を知り、地域への愛着が深まったという意見が寄せられた。住民もフットパスを理解し、イベント時のおもてなし企画や、除草など集落の維持管理作業などまちづくり実践者が増加した（約 150 人）。
- ② フォーラム、ワークショップ、イベント、おもてなし企画、維持管理作業などへの参加者や観光客など、関係人口が増加した（延べ約 230 人）。
- ③ 集落の除草・清掃など環境美化、休耕地での作物栽培再開など里山景観保全が進んだ（総延長 L=4.85km）。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

身近な地域資源を活用し鬼無里地区の課題解決につながる取組みとして、今後もフットパス事業を活用していく方針。今回整備した「谷の都コース」のPRに努め、フットパスをきっかけに多くの人に鬼無里を知ってもらおう。また、平成 30 年度は白髭神社周辺で2つ目のコースづくりに取り組む。将来的には地区内にいくつものフットパスコースをつくり、地域づくりにつなげていきたい。

#### 【選定のポイント】

住民参加のワークショップの開催・検討を経て、ウォーキングコースを新設し、それを活かした鬼無里フットパスフォーラムや、地域住民がおもてなしで参画したウォーキングイベント等が実施され、鬼無里への関係人口を増加させる効果があった。また、集落の除草や休耕地での作物栽培開始など里山の景観整備も進むなど波及効果をもたらした。

団体名	鬼無里観光振興会（長野市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	長野市鬼無里日影 2750-1 026-256-3188	事業費	1,988,629円
		支援金額	1,532,000円